

神戸の味覚

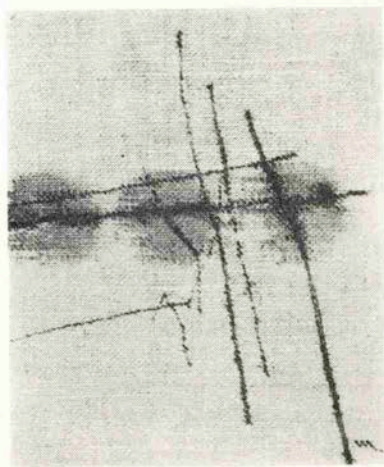
楠本 憲吉〈俳人〉

え・南 和好

神戸は、私の十代を過ごした懐かしい町である。
トア・ロード……六甲山麓から市電山手線を越え、高架のガードを過ぎて大丸前にいたる南北の坂道……。教会、オフィス、住宅もところどころに見られる大人の町、優雅な商店街といていいだろう。

オランダの本靴の並んだシャレタアクセサリーの店や、婦人帽子専門店や、ユダヤ人の宝石店や、中国服の専門店があつて、ショッピングの通りというよりは、お天気のいい日や、さわやかな夕方に散策を楽しみ、ついでに買い物をしてゆくという町である。

「デリカテッセン」はこの通りのほぼ中央にある、いかにも神戸らしい高級食料品店だ。ご主人は高橋明暢さん。神道に深く帰依した秋田出身のご婦人である。



店一ぱい、ソーセージ、ハム、チーズ、パテなどが置かれている。食いしん坊の人にとって、それらは、まるで宝石箱を覆えたように目に映るに違いない。心憎いことに、店の奥に小さいスタンドがありサンドイッチを食べさせてくれる。勿論香り高いコーヒーも。お手のもののハムやサケの燻製、サワービツクルス、ローストビーフ、レバーパテなどのサンドイッチがカゴ皿に盛つて出される。

勿論、この店の代表食品は、スモークサーモンである。その姿を崩さぬ柔らかさ、舌にのせた時のうまみはこの店の製品を置いてほかでは見られない。

元町の「青辰」は、兵庫港開港以前の古いたべもの屋で、あなごずしの専門店。しかも営業時間は十時から十三時、時には開店して一、二時

間で材料^{たね}切れということも珍しくない。上々のあなごの一本選りで買いつけるのだから仕込みに限度があるわけ。あなごずしというのは、あなごと椎^{しほ}たけときくらげののり巻のこと。ちらしもあって、この店自慢の卵の錦糸がふりかけられる。あなごのキモのお通し、焼あなごも作ってくれる。

神戸から少うし足をのばし、明石市の神戸寄入り口、大蔵八幡町のブッチングハウスのハム、ベーコン、ソーセージはばつぐんにうまい。カナディアンペイコン（豚のチャップ肉を燻煙したものの）、二杯酢で食べるとおいしいといわれるヘッドチーズ、タンソーセージ、豚の生血を主原料にし、それにタンのかたまりの入ったブラッドソーセージ、燻製後長期間自然乾燥したボイルサラミなど、まさにこの工場独特の製品ばかりである。

神戸牛という言葉があるように神戸と牛肉との関係は切っても切れないが、神戸牛といわれるものの多くは、兵庫県下の但馬の牛という。但馬というところは、寒冷地で、野草が豊富、養牛には適した地形を持っている。ここで産する、いわゆる但馬牛の、脂肪がキメ細かにもみ込まれた、弾力のある、鹿の子ロースは絶品である。

すき焼は生田区中山手通の「山三つ輪」のそれを愛する。しっかりと普請の落ち着いた店である。新世紀の向いの「みその」は鉄板焼ステーキの元祖だが、鉄板焼のいい店が沢山殖えた昨今、往年の魅力はなくなった。

南京街の入口にある「老祥記」のブタマンジューは相変らずうまい。

洋食では北野町の坂をあがった高台にある「コラルキタノ」がいい。神戸肉を材料にしたキタノ

・ステーキ、仔牛のシェリー酒煮などのリッチな味を楽しみながら、百万ドルの夜景を眺める心地はいつ行ってもいいものだ。

兵庫区戸場町にある「かいや」のかまぼこは日本一である。材料はハモ一本。やきぬきというかまぼこは恰幅のある堂々たるもので、まさに一品料理として通用する風格を備えている。

さて、秋の夜長を一杯かたむけようかということになると、私が必ず寄る店が一軒ある。

三の宮東門筋にある「スライス」。この店は、この道二十数年の老夫婦二人が静かにやっているスタンダードバーで、通にはよく知られている店である。ここでは東京でもめったにお目にかかれぬウイスキー、ブランドーが目白押しに並んでいて、飲ん兵衛の目の色を変えさせる。アーサー・キヤンドラーというブランドーや、ブキャナンズというウイスキーは、私がこの店で初めて口にしたものだ。

神戸の味覚の話をしていてはキリがない。うまいものの条件に、食べる人の心を安定させるといふのがあるそうだが、神戸で食べる食べ物の味は、まさに私の心を安定させてくれるからである。つまりはこれがふるさと料理の醍醐味というものであろう。

〈俳人〉



＜筆者＞

□ ずいそう

京都・淡路

神戸

奈良本辰也

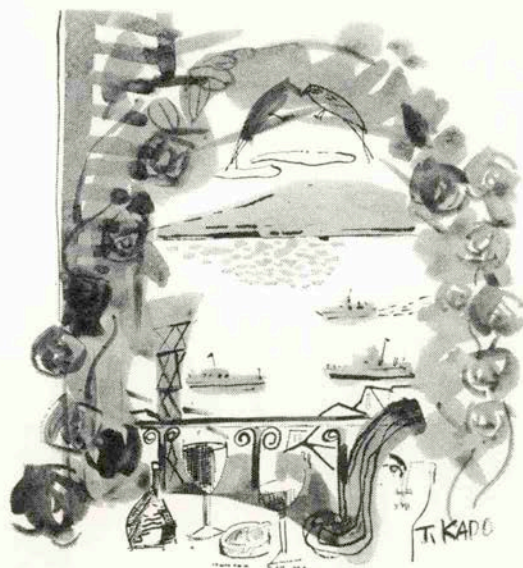
え・角 卓

学生時代に京都に出てきて、そのまま住みついてしまったのだから、私の京都住いもずいぶん長いことになる。その間に京都市史の編纂などに携ったこともあるので、京都のこともいろいろと勉強した。古い歴史のこと、新しい出来事はいうに及ばず、夜の巷を彷徨して彼方此方とずいぶん呑み廻った。京都の多少とも名の通った料理屋で私の足が入ってないところはないくらいである。

京都の料理というのは、いかにも伝統を感じさせるものだ。器から一寸した肴の盛りつけ方など

実に心がゆきとどいている。これは、なけなしの材料を如何にうまく食べさせるかということを考え抜いてきた知恵のようなものである。

京都のことを書き出すと、すぐ食べることにか呑むこととかなってしまいが、社寺を除けば、これが一ばん京都らしいので仕方がない。京女、などというのは、要するに田舎者の憧れが幻を画いただけであって、言うほどの人にお目にかかったことはない。依田義賢氏と話したが、「要するに、それは居らんということどすな」という



ことで意見が一致した。

とにかく、長い京都であったが、しかし私は京都人になんてなりたくないと思っている。あくまでも、ここでは異邦人として住みたい。東京から赴任してきた私の知人は、一年ばかり京都に居をかまえていたが、「こんなところにはとても住めぬ」といって、大学まで辞めて帰ってしまった。

この三方を山で包まれた小さな盆地に何百年も住んでいると、妙に人間が小さくなって意地の悪い人物がうようよと出てくるような気がする。古くは木曾義仲のような立派な人物も、京都に入ればかりに悪人にされてしまった。頼朝はさすがに、ここに幕府はおかなかった。京都に幕府など置いていたら、頼朝なども完全に悪党にされていただろう。

京都には海がないことも、私の不満の一つである。これは、私が瀬戸内海の島に生れて毎日海を眺めて育ったためであらうか。海のないところはとも夢がないような気がする。私は、京都を放れるところまではゆかなかったが、その海を求めて淡路島に山荘、いや海荘といった方がよいかなそれをつくった。小高い丘の中腹で、ここからは播磨灘が一望のもとにおさめられる。夕陽が素晴らしくきれいだ。色紙を頼まれて、

島むらさき、海金色に照り映えぬ

こゝなる浦の 入陽うるわし

と詠んだものだ。そうしたら、この町で何十年も住んだという老医師が「いや、あなたに言われて初めて夕陽の美しさを知りました。これほどの美しさは、どこにもありませんなあ」といって喜んでくれた。それに、この辺りは魚がうまいのであ

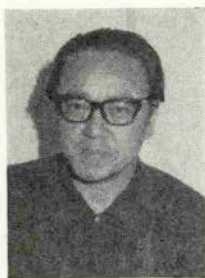
る。この魚の美味さは、ちょっと類がないほどだ。私が、その味を賞めるので、いつもそこにでかけると必ず魚屋が私の好みに応じた魚を用意してくる。島の人情もよい。

京都と淡路を往来していると、どうしても足を留めたくなるのは神戸だ。私の教え子である女性には、靴とかハンドバッグ、それに洋服などを買うときはきつと神戸にでかけるといつていた。聞くところによると、そのような女性が多いそうだ。私のところでも靴とかハンドバッグなど神戸が一番よいといっていた。センスがあるのである。

神戸というと東は横浜を思い出すが、この横浜と神戸は月とスッポンほどの違いがある。もちろん、神戸が月だ。同じ外国に向って開いた港であるのに、どうしてこうも違うのだろうか。それに神戸の人は明るくてよい。私など、京都にこれほど根をおろさなかったら、神戸に引越しをしてもよいと思ったことが度々あった。

また食物のことになるが、神戸は食物の美味しいところだ。肉でも魚でも材料がよい。京都など、どんなに頑張ってみたところで神戸の材料にはとても及ばぬ。そんなことを考えていると、「晩年は神戸に引越すかな」などと家内と話し合ったりすることがある。淡路島にもたびたび行けることであろうし、ちょっといいな。

〈歴史学者〉



〈筆者〉

□朝日新聞神戸版人気シリーズ「神戸の一〇〇人」を終えて

神戸の一〇〇人

うらおもて

重 森 守 (前 朝日新聞神戸支局長)

ぶろろおぐ

朝日新聞の神戸版に連載されていた「神戸の一〇〇人」なるシリーズが、やっと十一月で終ります。やっと、というのが、文字通り実感なのです。つくっている側からすれば、それはそれは大事業だったわけです。はじめは、軽い気持ちで取りかかった、というのに……。

で、その大事業の裏側を書け、という注文なのですが、これがまた大変。なぜかって、つまり何を書いてでも差障りがあるのです。だって、登場人物は、どれもこれも現在、神戸の第一線で活躍中の人ばかり。いや、まったく弱りました。

その 一

九月なかば、私の手元に無記名の投書が来ました。「神戸の一〇〇人」てのは不愉快である。まず、

人選が通俗的だ。朝日なら朝日らしく、もっと無名の、コツコツと社会のために働いている人物を掘出せ。記者の質問も安っぽい。週刊誌的すぎる……」てな工合で、ボロカスです。ところが、この投書の主、実によく「一〇〇人シリーズ」を読んでいるんですね。私はニンマリしました。

人選は、まさに通俗的です。平均的有名人の羅列であります。質問内容もご指摘の通りです。つまり、そういうものをはじめからつくるつもりだったのがな。

人選——神戸支局の記者二十人が、それぞれ十人ずつ推薦する。別に「神戸っ子」編集者など十人の神戸通「もの知り」からも、リストを出してもらう。こうして集めた各分野の人材を推薦者の多い順に決めてゆく。で、春先には百人のうち九十人まで決定してしまつた次第。もっとも肩書が立派でも、性格的に特徴の少ない人、つまり取材

してもオモシロク書けそうにない人物は割愛しました。

はじめは、よかったのです。「朝日らしくない」でっかい顔写真。中身もくだけて、出てくる人物

も千変万化。いい意味でも悪い意味でもパアッと評判になりました。

だが、終りに近づくにつれて困ったことが生じました。自薦他薦が押寄せてきたのです。当然自

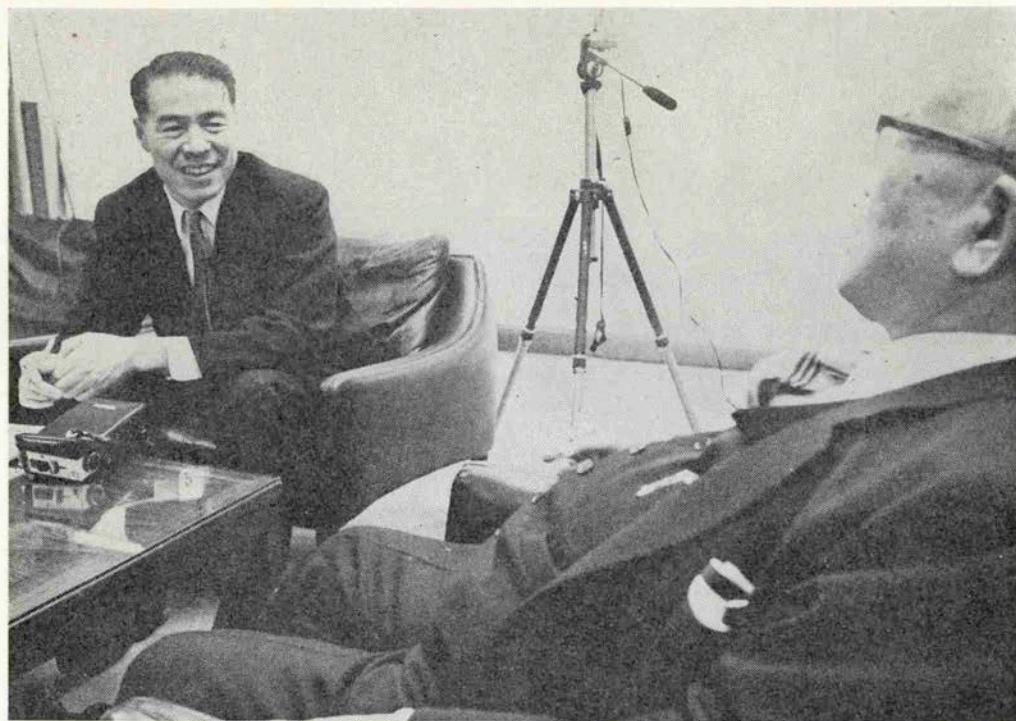
分は百人の中にはいると思いいこんでいる人が意外に多く、とくに日ごろ私と個人的な交際のある人は……です。なかには聞きもしないのに「二十日までは神戸におるが、月末は旅行だよ」などとお知らせをいただく人もいます。早く取材に来いというわけでしょうか。

おしまいには、わが本社の編集局長とか元重役のOBを通じての『売りこみ』もありました。もちろん、神戸支局ではじめに独自に決めたもの以外には、一人も割りこみを許しませんでした。だって、それでは読者が承知しませんよネ。

ある文化人の集るスタンドではこんな流行語ができたそうです。

「朝日が取材に来よったけど、オレは断ったんや」

念のために申し添えますが、当方が取材に行つて断られたのは、元町バザー経営者の小林新二さん、部落解放同盟の福地幸造さん、それに新空港建設反対運動の主婦寺島和子さんの三人だけ。小



神戸新聞の田中寛次社長（右）をインタビューする 筆者（3月末、神戸新聞社長室で）

林さんは「愛読してますが、私は晴れがましすぎで……」あのお二人は「運動は団体でやるもの。登場することで個人プレーと取られるのは困るから」でした。

あ、もう一人。山口組三代目親分、田岡一雄組長です。これはゼヒもので絶対に出てもらおうと、掲載分のコピー持参、下部の親分衆を通じてりして、いろいろ手を尽しましたが結局ダメ。のどを痛めて声が出にくいこともあり、とうとうマスコミぎらいの壁を破れませんでした。口惜しかったですですねえ。

その二

取材にそなえて、支局でカセットテープのレコーダーを買いました。(いままでなかったのがバレル)こまかい会話のやりとり、地方ナマリの再現に効果的だからです。あとで「言った」「言わぬ」のもめごとになっては困るからでもあります。もつとも新谷映子さん(彫刻家)のように「テープはイヤ」と拒否した人もいます。渡部一郎さん(公明党)は録音テープに苦い経験があり、とても意識されました。

しかし、これはラジオのインタビュ番組ではありません。要するに、わずか四百字詰め四枚たらずの原稿の中で、その人物像をいかに紹介するか、がポイントです。相手は、担当記者にとつて、半数あまりが初対面。わずかに、二時間の面談(対話)で、とてもつかみきれものではありません。

「人間は、しょせん不条理な存在。統一された人間像などあるはずがない。だから、人を分析した

り批判したりする行為は、結局その人の虚像をみることに終るのではないか」(第五部・詩人小林武雄氏の前書きから)というわけです。

私自身の体験によると、初対面の小児科医師原口力さん(空港反対運動リーダー)を取材したとき、どうしてもこの人の本質がつかめません。一応書いたけど、核心をついた自信が持てない。結局、三回も足を運び、アレコレゆさぶったがダメ。不本意な記事になりました。

あとで原口さんに会ったら「あのときは身構えましたよ。ボロを出すまい、本心をつかまれまいと必死でした」と笑われました。そうです。つまり、取材する側と、される側。二人の血みどろの格闘なのです。このインタビュは——。

作家杜山悠さんは、担当記者に「キミなんか、ボクが書けるわけがない」といい放ちました。同じ作家の足立巻一さんを担当した記者も、「つかめない」と首をひねりながら何回も訪問しました。市婦人団体の妹尾美智子さんは、たしか四回もインタビュしているはずですよ。だいたい、もの書きは書きにくい(卒直派の田辺聖子さんは例外でした)ようですよ。

その三

ふつう新聞記事は、絶対に主観を入れてはいけないことになっています。ところが、このシリーズは記者の主観まる出し、それどころか記者自身が相手をやつつけて喜んだり、軽くあしらわれて退散したり——そんな姿が露骨に出ています。それがまた読者に人気を呼んだ理由の一つでしょう。

★朝日新聞神戸支局編

神戸の100人

11月25日発売 定価870円

書店にて発売 B 6 版44頁 (表紙題字/望月美佐)

出版元/神戸新報社

神戸市生田区下山手通3 電話078(391)4172

取次ぎ/月刊神戸子編集部

神戸市葺合区八幡通5丁目96 K・Eビル

4 F 078 (221) 7037・8072

★関西の情報月刊誌

オール関西

表紙
西山英雄

11月号 (11月初旬書店にて発売) 190円

★特集 神戸を創る200人

★タウンガイド 京都・大阪・神戸

★連載対談 上 松 松 篁
村 松 寛

★好評連載ルポ

京の宿<東籬> 邦 光 史 郎

★創作 ボンボンバラセ

島 久 平

発行所 大阪市北区曾根崎上1丁目30 八千代会館 TEL(313)2635
神戸支社・TEL221-8072 京都支社761-5284

足立さんからは「無理にやつつけようとしているのがある」と批判されました。陳舜臣さん（作家）は「ヤユ（からかい）が表面に出ているから、取材されるのはイヤだなあ」と事前に苦笑していました。田崎俊作さん（真珠会社社長）のご家族は「みんなオチヨクラレティ面白く読んでましたけど、あれにウチのおとうさんが出るんですか」と複雑な表情だったそうです。つまり、あのシリーズには、一種のザレ歌、川柳みたいな精神が、多少はあったのかもしれない。でも、書かれる側の反応は、さまざま。大別すると、すでに確固たる基盤のある財界人は何をかかれても平然。逆に、いわゆる文化人は神経質。政治家は……そう石井一さんなどは後援会報に再録したりして活用していましたネ。サースガ。

写真も大写しの異色作で評判になりました。神戸新聞社長田中寛次さんの極度のクローズアップ。砂野仁さん（川重）のユニークな横顔。主婦作家丸川栄子さんは「砂野さんのときのようなイジワルな写真は撮らないでネ」と、注文したそうです。そうそう、女性には、どんな有名人でも男まさりでも、必ず髪を直したり、いつもしない化粧をしたり……ああ、やっぱり女ですねえ。

（朝日新聞大阪本社通信部長）

Merry
Christmas



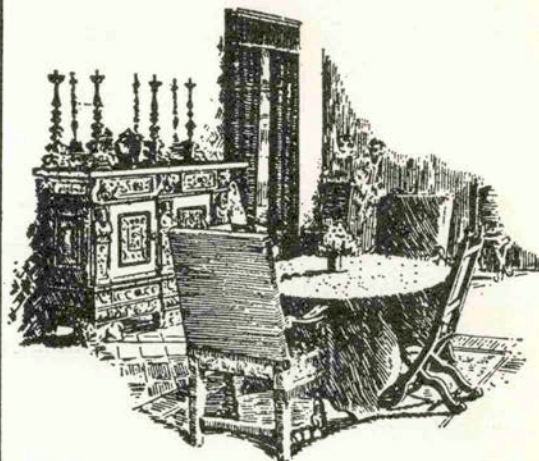
ドイツ菓子

Falreim's

ユーハイム

本店 三宮生田神社前 TEL(331)1694
三宮店 三宮大丸前旧市電筋 TEL(331)2101
さんちか店 三宮地下街スイーツタウン内 TEL(391)3539
心斎橋店 大阪心斎橋筋大丸前 TEL(252)0925
阪急三番街店 梅田阪急三番街地下2階 TEL(372)8823

家具・室内装飾・工芸品



永田良介商店

神戸市生田区三宮町3丁目大丸前 TEL神戸神戸(391)3737
(代表)
東京店・東急百貨店 { 日本橋店内6階 TEL 03(221)0511
本店(渋谷)7階 TEL 03(462)3180
工場 神戸市垂水区多聞町小東山975-35
神戸木工センター TEL (078) 706-5005 (代)

☆神戸っ子対談

神戸を知的生産の街に

秋田 博正 〈正興産業㈱社長・神戸経済同友会代表幹事〉

小林 博司 〈小林桂樹代表取締役・神戸経済同友会中国問題委員会副委員長〉

★ヨットこそわが伴侶

小林 秋田さんと私とはヨットを通じて先輩と後輩の関

係になりますね。秋田さん、といえばヨットの神様みたいなものですか（笑）

秋田 今、私は関西ヨット協会の会長をしています、



秋田 博正氏

前にレースの審判委員長をしていた時によく出会った。

小林 レースの終わった後、秋田さんに呼ばれてよく叱られました(笑) 甲南大生の頃ですよ。秋田さんはヨットではもう一番古い方でしょう？

秋田 ええ、そうですね。学生時代からヨット部にいましたから、もう三十年にもなりますかね。今でも時間がつくれる限り、日曜日毎にヨットに乗ってます。その代りゴルフの方がおろそかになって、さっぱり上達しない(笑)

小林 僕の方はずぼらなので月に一回ぐらいかな。

秋田 その代り小林君は飛行機の操縦もするんですよ？
小林 この前の日曜日も高知まで友達と魚釣りに行きました(笑) 高知まで一時間十五分ぐらいです。その夜はちょうど満月だったでしょ。ちょうどその頃釣りにいった帰りで、神戸の上を飛んでましてね、飛行機からみる満月というのもとてもきれいでした(笑)

秋田 私は、あの日は遅くまでヨットハーバーにいましたね、マスト越しに見る月もまたよかったですよ(笑)

小林 秋田さんの乗ってらっしゃるのはドラゴンですか
秋田 ええ、そうです。

小林 私はレース艇には乗らずにクルーザーで、中で酒飲んでます(笑)

秋田 私もこの前まではクルーザーに乗ってたんですがまたレース艇に乗ってなくなっただけです。おもしろいもので、レース艇に乗っていると今度はのんびりとクルーザーに乗りたくなり、クルーザーにしばらく乗っているとまたレース艇に乗りたくなる(笑)

小林 私もこのごろまたレース艇に乗りなくなつた(笑)
秋田 ヨットの魅力は何といつても自然にとけこむ、という事です。

小林 機械を使わずに風の力で走るといふ、一番プリミティブなところですね。人間が自然にとけこむというか秋田 あの海のおおらかさ、いいですね。また沖から眺める六甲というのが実に素晴らしい。神戸ならではの

★ドル・ショックで打撃をうけた中小輸出業

秋田 ところで、今度のドル・ショックによる不況はかなり深刻のようですね。神戸は特に中小企業の輸出産業が多いだけに大変だと思えますね。

小林 神戸の貿易の性格として、輸出専業の中小業者というのが多いですから、そういう点では大変でしょうね。対米輸出の場合は課徴金と、それに西海岸の港湾ストの影響もありますし。

秋田 せっかく立ち直ろうとしていた経済が、またこれでしばらくは不況ですね。しかし日本人は勤勉だから、また一、二年もしたらもとにもどるでしょうが。

小林 ハーमारカーンにいわせれば、一ドル三百円にしても日本人だったら十八カ月でもとにもどるだろう、ということをいってますね。

秋田 先方が非常に待ち望んでいる、あるいは先方に真似のできない業種とか、大企業でまだ合理化が若干でできる余力のあるところはいいですが、そうでないところは困るでしょう。結局、中小の輸出に頼っている業界に対する配慮が必要ですね。

小林 深刻さというものが一般の人にはピンとこないかもしれないませんが、これは日本人というのはヨーロッパのように道一つへだてたら隣の国で、マルクやフランやポンドなどが交互に流通している国じゃないですから、外国為替の切上げというようなこともあまりピンとこないですね。だから、ジャーナリズムが書きたてるような深刻さというものが受け止めにくいし、もう一つにはジャーナリズムによっておどらされて、必要以上に恐れるという点と両方あるでしょう。業種によって不況の度合は違うでしょうが、ただ不況がくるといつて恐れるのもおかしいと思えますね。日本人はこの二十六年間にこれだけのものを築き上げてきたんですから、このぐらいのショックは乗り越えていくでしょう。だから恐れること



小 林 博 司 氏

小林 だから日本がいくら努力しても、アメリカのドル海の外流出が今までのようにつづけば、いつまでたっても改善されないでしょう。

秋田 自分の力というものをあまり過信しないようにしてもらわないとね。やはり艇長と乗組員がよく協力することです。

★クローズアップされてきた 中国問題

秋田 最近、中国問題があちこちでいろいろととり上げられています。が、この前も大阪の経済五団体が中国に使節団を派遣しましたね。来年の春には神戸も使節団を送る動きがあります。

小林 貿易協会では今年の秋に使節団を出すという話もありました。

秋田 これも時代の流れだし、いつまでも固定的な考えをもっているのもどうかと思いますね。やはり中国というものの実情をしっかりと認識して、流動的に対応してゆくことが大切でしょう。

小林 関西というのは、戦前は関東よりも伝統的に中国との商取引も多かったようですから、関西が一つリーダーシップをとって、中国問題に積極的に取りくんでいきたいものですね。

秋田 神戸港も中国との貿易が開始されれば、一度に飛躍的ではないにしても、支那大陸との貿易上でのウエイトというものは上ってくるでしょう。

小林 「中国行きのバスに乗り遅れるな」とかいわれていますが、そういうことじゃなくて、流動的に時代の流れに対応しないといけませんね。

秋田 自由主義国家間だけの貿易じゃなくて、これから

はないと思いますが、楽観論も許されません。

秋田 この前の関西経済団体連合会25周年の祝賀パーティに佐藤総理がみえていたんですが、その席で総理は、今日の日本の繁栄は世界の安定と自由貿易ができているためにあるのだから、とくり返し強調され、自由主義国家群というものは協調してその秩序を維持しないとけない、ということをおられた。確かに日本のように貿易依存度が高いところはそういう国際的な協調がないといけませんから、対米関係もおろそかにはできませんね。

小林 アメリカはやはり日本にとって最大のお得意さんですからね。

秋田 自由主義国家群というのは一つの船に合乗りしているようなものだから、この船が平穏に走ってもらうようにみんなが協力するべきですね。

小林 今度のアメリカの国際収支の悪化は、アメリカを艇長とする乗組員の責任もあったかもしれませんが、艇長の判断の誤まりというのもあるでしょう。

秋田 それは大いにありますね。

はそれ以外の国々との貿易を考えていく、ということも必要になってくるでしょう。裏日本などではソ連材の輸入なんかたいした量ですよ。

経済同友会にも「中国問題委員会」があって、中国の理解、認識に努力してるんですが、いずれ大阪あたりの働きかけもあって、共同での委員会というものができると思います。

★神戸を情報、知的生産の街に

秋田 関西新国際空港はぜひ神戸沖につくってほしいですね。将来の神戸を考えた場合、神戸港と新しい国際空港、それに山陽新幹線と中国縦貫道路、そういうような交通の発展というのが、これからの神戸の発展のカギになってるんじゃないかという気がします。重化学工業を誘致するというようなことはもう不可能だし、港を中心とした交通のかなめとしての役割を十分に果たすことが必要なんじゃないでしょうか。これは単に物が動くということだけでなく、人が往来し、情報が入ってきますから、今後神戸がどういう方面に伸びていくかということになると、物的生産よりもむしろ知的生産というものを伸ばしていく方向と、国際化という方向が最大の道じゃないかと思います。だから公害のない空港はぜひ神戸にもってくるべきですよ。商売ということを離れても、神戸の市民とすれば空港をもってくることは決して間違っていないと思います。

小林 ところで、空港ができた場合、運用の方はどういうふうになるんでしょう。

秋田 ここは国内、国際線が半々ぐらいになるようです。年々飛行機を利用する人は増えてますから、日本に二つは国際空港が必要です。その一つはやはりかならず関西にほしい。ポートアイランド沖に空港ができることになれば、実際問題としてその工事によって地元がかなりうるおう点もあるでしょう。

小林 空港ができれば、それによって神戸におちるお金というものもバカにならないでしょうね。

秋田 神戸というのは人間が大事にされるような自然環境に恵まれている街ですから、これはいつまでも守りつづけていくようにしたいといけません。それと近代化ということはどう調和させていくか、というところが難しいですね。自然と経済と文化がバランスのとれた発展をしないといけません、私はやはり経済的な繁栄がないと国民の繁栄はあり得ないんじゃないかと思うんですよ。人間は霞を食べて生きていくわけにはいかなし、ハンガリーでも経済的不況がくると暴動が起るし、アメリカでも不況で治安が乱れている。繁栄と環境保全のバランスをどうするかです。反対はしやすいけども、やはり断行ということが大事なんじゃないですか。

小林 反対派の人達を納得させて、一日も早く空港が稼働する状態になってほしいものですね。

秋田 今後の経済というのは人間尊重の時代ですから、人間を軽視するようなものは極力排除し、神戸の場合は背後地もあまりないわけですから、先程も申しましたようにこれからは物をつくるということよりも、知的な生産にウェイトをおいていくということ、もう一つは国際化、というか、神戸がこれからの日本の中心となるような役割を果たす街にしていきたいものです。

小林 それと、神戸の人に望みたいのは、東京や大阪に逃げないで、神戸に踏みとどまってほしいということです。私のとこの商売でも商いからすれば東京の方が多いので、本社を東京へもっていった方が有利なんです。が、輸入した品物で東京へ送る物でも、一度神戸へ掲げてから送るというようにしてるんです。

秋田 それは大事なことです。ここでひとつ全市民あげて神戸を盛りあげて、みんなで協力して神戸を発展させていこう、という気持を持つようにしましょう(笑)

△オリエンタルホテルにて▽

経済ポケット ジャーナル



べた。

★兵庫県社会福祉協議会 会長に 関 外余男氏就任

兵庫県の地域福祉活動を行っている兵庫県社会福祉協議会が昭和二十六年三月に創設されて以来、二十二年間会長を勤めてきた朝倉斯道氏がこのほど退任し、後任として前事務局長の関外余男氏が会長に就任した。



関 外余男氏

関氏は三十三年に社協入りをしてから事務局長として朝倉前会長の女房役を勤めてきた。

以前は愛媛県経済部長、徳島県総務部長、埼玉県知事、神戸市助役なども勤めたこともあり、今度の会長就任に際して、「社会福祉、社会保障の充実を目ざす『朝倉路線』を正しく発展させる」と決意のほどを述べた。

★川崎重工業健康保険組合 の体育館完成

十月六日、川崎重工業健康保険組合が兵庫区東山町三丁目二番地の川崎病院の近くに完成した。



完成した川重体育館の外観



中西画伯の手による大壁画

一六五で各種の体育設備のほか、一階には会議室や喫茶室、二階には舞台設備や放送設備があり、四階は観覧席となっている。

この他に、正面入口を入ると、画家中西 勝氏による力作「愛と力」が、そしてその側には清水多嘉示さんによるブロンズ裸婦像「輝き」が置かれ、この体育館の重みを増している。

★世界最大コンテナ船 「鞍馬丸」進水

日本郵船の世界最大コンテナ船「鞍馬丸」(五一、三〇〇トン)が、このほど三菱重工神戸造船所で進水した。

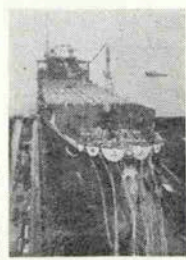
コンテナを一度に二千個近く積めるうえ、スピードも二六・一五ノットとモーターボート並みで、商船では世界で一番速い最新鋭コンテナ船。

三月二十日に起工され、

船価約七十三億円。全長二百六十一メートル、幅三十二・二メートル、深さ二十四メートル、神戸商工貿易センタービルを二つ並べて倒してもまだあまる巨大大船。

四十三年に同造船所で造った日本最初のコンテナ船「箱根丸」(一六、二四〇トン)は七百五十二個のコンテナしか積みなかつたが、わずか三年の間に三倍近く積めるようになったわけだ。

同船は来年三月に完工、先に進水した同型の「鎌倉丸」などとともに豪州航路に就航する。



進水する鞍馬丸

★KOBE オフィスレディ★



上村晶子 (25才)
株式会社ファミリア 企画室嘱託

高校の時からアルバイトを含めるともう8年目、その間万博で通訳の仕事もやったというから語学力も立派。子供に対して同族意識が働くのか大変好きだとおっしゃる素敵なお嬢さん可愛いクマちゃんを楽しそうに書いている姿が想像できる。垂水区在住 神戸女学院大学卒

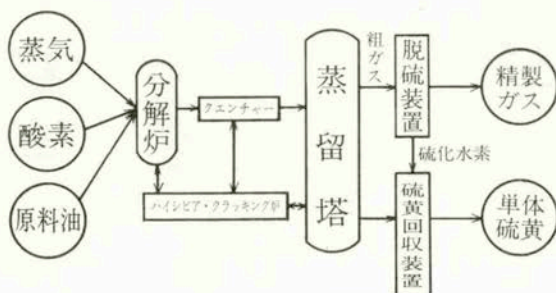
新脱硫技術

諸 岡 博 熊

△経済外資環境公団工務部長▽

原油分解工程で、特殊な熱分解炉を使って原油を熱分解し、エチレン、プロピレン、B・B留分ほかのオレフィン類を製造しようとする。強制循環型流動層方式の研究が進められている。このような原油を分解する技術を通称「重質油のガス化脱硫プロセス」という。すなわち、カフジ残渣油など高硫黄含有の重質油をガス化して硫化水素の形で硫黄を取り除き、オレフィン分の高いかつ、発熱量の大きい燃料ガスを得ようとする研究開発で、目下、工業化試験の段階にあるといわれる。工業化が実現すると、LNG（液化天然ガス）なみの無公害燃料を大量生産できるようになるといわれ、都市ガス製造に当り、LNG供給の不安定性を補うために、合成ガスとして応用もされようというものである。したがって、これはナフサに代る——石油化学原料を原油に求めようとする新しい分解技術といえよう。

研究開発中のものは原油分解用



ガス化脱硫概念図

の熱分解炉をそのまま利用し、酸素、蒸気、原料重質油とともに分解炉に供給し、クエンチャー、蒸溜塔を通じて、重質油を酸素で部分酸化し、精製ガスを得ようとするものである。粗ガスから精製ガスの過程で脱硫装置が設けられる。すなわち、供給原料重質油として、高硫黄原油、硫黄分の高

いカフジ残渣油、真空残渣油などを使用されるが、これら油中に含まれている硫黄分は硫分水素として、脱硫装置を経てガス化する。

このガス化脱硫という新しい技術のみそは、硫化水素のほか、エチレン、プロピレンなどのオレフィンリッチの混合生成ガスを吸収液で硫化水素を除き硫黄分を含まない精製ガスを得ようとするところにある。

この技術が完成すると、粗ガス中の硫化水素はほとんど除かれ、硫黄が単体として回収できる。さらに発生ガスの熱量が一立方メートルあたり七、七四〇キロカロリーもあるため、製鉄用、発電用、コンビナートや都市ガスの燃料用として使用できるようになる。普通の重油脱硫の限界では一%、間接脱硫で二%といわれるが、このガス化脱硫技術によるとほとんど百%可能となる。

このような、カフジ残渣油のガス化技術にさらに、石油精製で過剰となっている残渣油——これは主としてアスファルトの原料用であるが、いわゆる真空残渣油と称せられるもので、これの有効利用も図られる便があり、また、石油系の無公害燃料が入手できるといふ利点をあわせもつ。

男の格調が映える

秋



O-SHIBATA

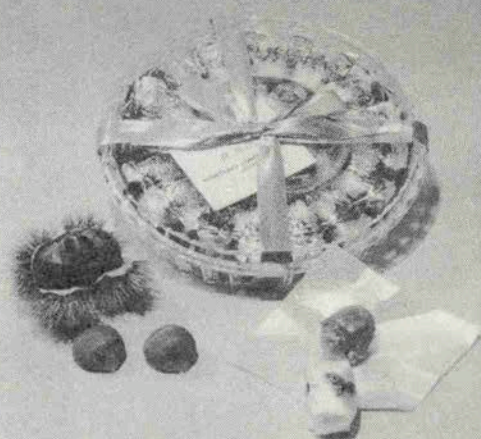
柴田音吉洋服店

神戸・元町4丁目南 神戸341-0693
大阪・高麗橋2丁目 大阪231-2106

神戸にそだったフランスの銘菓

マロングラッセ

MARRONS GLACES



ブラケース入 ¥ 3000, 2000, 1500, 1000

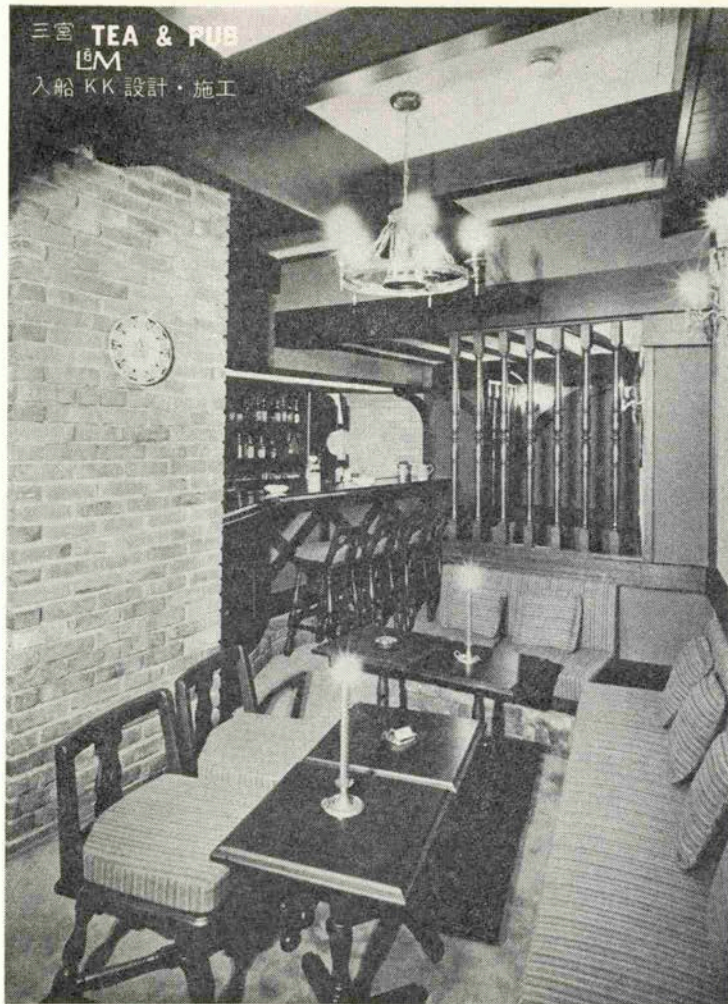
化粧箱入 ¥ 5000, 3000, 1500, 1200, 600

神戸にそだって70年

 **月 月 堂**

元町3丁目 TEL391-2412~5
さんちカスイーツタウンTEL391-3455

三宮 TEA & PUB
LM
入船 KK 設計・施工



まいしょっぷ

喧噪と静寂

緊張と弛緩

古レンガと松林が織なす

ラスティカルな空間を

壁の赤いベルベットが

ワインと人間の対話を

見守ってくれる

企画・設計・施工のオールマイティ

入船株式会社
神戸市灘区友田町5-2-2
TEL (078)851-3191

い 入船株式会社



くらしのプラン〈1〉

この冬

セントラルヒーティング
で過ごしたい方へ

暖かい冬を過ごすために、石油、ガストーブの時代から、最近はセントラルヒーティング・エイジへと、暖房設備の移行がみられ、その「新しい技術、新しいアイデア」へ急速に関心が高まってきました。

そこで今月は、関西でもセントラルヒーティングの設計施工に信用ある協和ガス住宅設備機器㈱の岡本日登志社長さんに、どうすればそのプランニングがたてられるかをあきしました。

「まず、設計施工を頼む前に基本的な方針を決めること
(1)暖房のみか、冷房併用か (2)暖房および冷房方式のどれにするか (3)エネルギー源に何をを使うか (4)どの部屋の暖(冷)房をするか (5)放熱器や吹出口をどこへ (6)給湯はどこへ (7)設計施工とアフターサービスへの配慮 (8)操作はどんなものがよいか (9)燃料の購入方法(オイルの場合のみ)は (10)月間の維持費は? これらのことは建築の平面プランで決めておかないと、気に入らぬからとテレビや、自動車みたいにかえるわけにいかないで、ご用心。だからその設計、施工を依頼する時に慎重に、経験と信用ある業者に依頼されることが肝心です。

依頼方法には (1)建築会社にセントラルヒーティングまで含めてトータルにやる (2)信用あるメーカーまたはガス会社の特約店に申込む (3)施主が直接知り合いの設備業者に頼むという3つの方法があり、それぞれ特色があります。とくに依頼する時のチェックポイントは
①設備費用が予算内でゆけるか ②エネルギー源に何を



北御影アーバンライフ

使うか ③燃料の補給は安心できるか ④ボイラー位置、放熱器、吹出し口などの位置の確認 ⑤建築上の保温処置は? ⑥アフターサービスは? ⑦配管材料は? ⑧音についてはどうかなどです。

初めての方は知識が少ないため自分のイメージとちがってトラブルが起きることが多いので家族の意見も十分に調整しておくことも大事です」

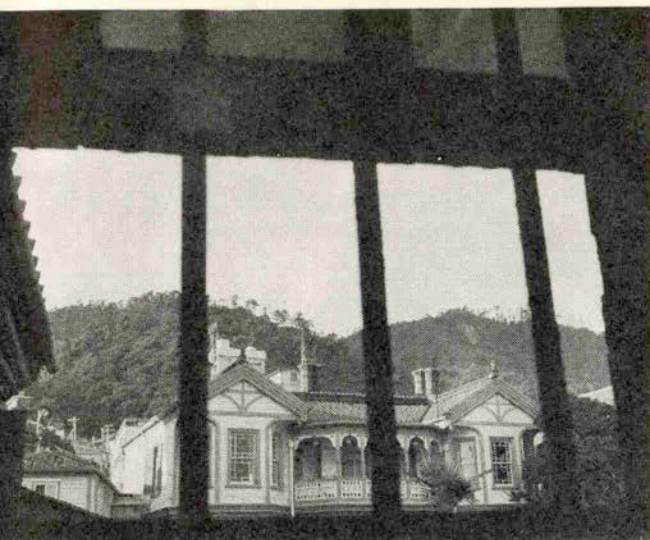
さて、岡本さんの協和住宅設備機器は、芦屋のサニーヒルや、芦屋、御影、本山などのアーバンライフなどのセントラルヒーティングを手がけたベテラン会社。気軽にご相談ください。(連絡は神戸市東灘区住吉東町4ノ7ノ16) 協和ガス住宅設備機器(株) ☎851-9321 大阪市北区梅田町46 大阪営業所 ☎345-8560)

●プレゼントコーナー

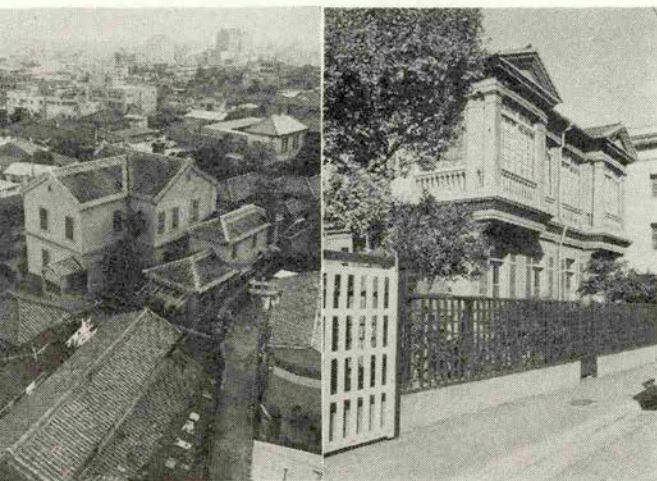
住いの設計「セントラルヒーティング」実案之日本社編(550円)を10名様に差しあげます。セントラルヒーティングのすべてが集約されたガイドブックです。ご入用の方は下記へお申込み下さい。(〆切は11月末日)

★神戸っ子編集部 神戸市葺合区八幡通5丁目96K・Eビル4F TEL221-7037・8072





街の中の異人館としての保存が何よりも望まれる北野町・旧居留地



★「コンザーベーション」ということばが、街づくりの手法に関連してよく使われるようになってきました。英語でconservation、直訳すると、「保存」ということです。

古い建物や街を、不要になったからといって、また、使いにくくなったからといってぶっこわしてしまうのではなく、再生して保存していこう、という主旨です。

積み重ねられてきた都市の歴史がもつ魅力、また、その都市活動や、街を舞台にしての市民の活動のドラマが、古い建物、街にはしみついているわけです。街の過去を現在に生かし、その街の個性的な発展をふるいおこさせる基礎として位置づけ、またそれが他の都市からその街を訪れる人々にとっても大きな魅力になるわけです。「時間」という価値を大切に、「蓄積」―ストックを有効に存続させていく方法です。

何でも新しいものはよくて、古いものは駄目だという考え方とは全く逆の方向づけです。パリのマレー地区、イギリスのヨーク、バース、チェスターといったローマ時代の城下町、日本では、倉敷や高山、そして、中仙道の妻籠などがその計画的代表例だとされています。

ところで明治以後の神戸の街でその「コンザーベーション」を考えるとしたら対象は何でしょうか。まず居留地と異人館があります。ビジネスセンターのなかに文化的広場とでもいったかたちで居留地の異人館をとりこみ、また、北野町の異人館の街なみを山手の散歩道にくみこむことを考えたいものです。そのほか兵庫の古い港町の雰囲気や有馬道などの旧街道なども……。

〈水谷顕介〉

神戸のアーバンデザイン
コンザーベーション（保存）

56

水谷顕介＋チーム・UR

異人館の仕事場
神戸のモダンリビング

⑤⑥

水谷順介＋チーム・UR

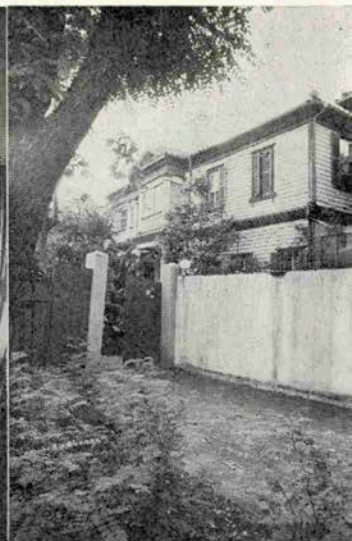
西洋人は環境に対する適合力が少ない人種でしょうか。明治の文明開花により、多くの西洋人が神戸に住んでいました。そして日本の風土と関係なく自分たちの様式を持って住宅や事務所を建て日本人の生活とは関係なく自分たちだけの生活を続けたようです。一方日本人も文明すなわち西洋と考え、西洋の技術と様式を取り入れることを積極的に行なって一日でも早く西洋文明と近代文化に追いつこうとする西洋に対するあこがれと劣等感がミックスして、洋館とその人々の生活を眺めていたのではないのでしょうか。その現われが和風住宅に洋風の応接室を作ることにより、何かより文化的な、近代的な雰囲気を感じる自己満足に落ちていたのではないのでしょうか。

古い日本の木造住宅は少なくとも100年200年の生命力を持っていますが、これは高湿多雨の気候と台風や地震に対する考えが構造や建物の細部の納りに考えられ、風通しのよい平面と高い床に表われています。それを無視した建物はまだ100年もたたないのに建物が朽ち、漆喰が落ちむごんな姿になって行くのです。現在ある異人館がこのような姿になっているのは建物の管理の状態もありますが当然の現象かもしれません。かつて異人館が、出来た頃は建物のテラスに座ると庭を通して神戸の街並と港、それに海岸通りに建つ自分たちの事務所が眺められ、都市住宅の立地条件としては絶好の場所であったでしょう。今ではホテルやマンションが建ちならび、眺望ができなくなったのが朽ちた建物とともに淋しさをおぼえます。

〈武田則明〉



天井が高いのでスタジオに最適
(黒人館を使ったグランビーのオフィス)



正面入口より



部屋の雰囲気にピッタリの収集した骨董品